



## PRESS RELEASE

岡山大学記者クラブ加盟各社

文部科学記者会

科学記者会

御中

令和 5 年 12 月 1 日

岡 山 大 学

慶 應 義 塾 大 学

### 診療看護師（NP）配置で変わる老人ホームの未来 —緊急受診減と経済効果を明らかに—

#### ◆発表のポイント

- ・特別養護老人ホームにおいて、医師の配置義務はあるものの、常勤していない場合が多く、看護師が医療ケアの主力となっています。
- ・本研究により、医師、薬剤師等の他職種と連携・協働を図り、一定レベルの診療を自律的に行うことができる診療看護師（Nurse Practitioner：NP）<sup>(1)</sup>の配置により緊急受診の減少、医療資源の適正利用への寄与、医療費増加の抑制に効果があることが認められました。
- ・本研究による診療看護師配置の経済効果と役割の評価は、今後の高齢者施設におけるケアの方向性を示し、政策策定や介護施設運営において大きな影響を与えることが期待されます。

岡山大学学術研究院ヘルスシステム統合科学学域の原田奈穂子教授の研究グループは、慶應義塾大学看護医療学部の鈴木美穂教授、国立病院機構長崎医療センター、社会福祉法人ふくじゅの森、東北文化学園大学と共同で、2019年10月から2022年9月までの期間、宮城県内の特別養護老人ホームで後方視調査<sup>(2)</sup>を実施。診療看護師を配置することにより、緊急受診の減少、医療資源の適正利用、医療費増加の抑制等改善が認められ、特別養護老人ホームにおける診療看護師の重要性を明らかにしました。本研究成果は11月29日にアメリカ合衆国の雑誌「*The Journal for Nurse Practitioners*」にオンラインで公開されました。

診療看護師は医学の知識と初期医療に関する実践を修了した看護師のことです。診療看護師は、従来の看護師よりも侵襲性の高い処置が実施できるだけでなく、患者さんを全体で捉えられるように疾患に対する基礎知識や治療内容などについても専門的な教育を受けており、患者さんの病状をタイムリーに捉え、検査や処置を行い、適切な説明を行うことが可能です。

#### ◆研究者からのひとこと

米国のNPになることを目指して留学をした成果がようやく実を結んだと感じています。第9回日本NP学会学術集会の受賞式では共同研究者が揃い、喜びを分かち合いました。（原田教授）



右から2人目：原田教授

右から3人目：岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）  
香田将英准教授（特任）

## PRESS RELEASE

### ■発表内容

#### <現状>

特別養護老人ホームには医師は配置義務に留まっており、看護師が医療ケアの主力となっています。

#### <研究成果の内容>

本研究により以下の成果が得られました。

##### 1. 緊急受診の減少：

診療看護師の配置により、緊急受診の回数が減少しました。これは、利用者（高齢者）の急な健康問題に診療看護師が迅速に対応できる能力があることを示しています。高齢者は一度体調の変化をきたすと、予備体力が無いことなどから急激に悪化する場合があるため、変化の早期発見と早期対処が重要ですが、診療看護師がその働きをできていたことを示しています。

##### 2. 医療資源の適正利用：

診療看護師の配置により、不必要な入院を防ぐことによる医療資源の有効利用の可能性を示しています。入院は多額の費用がかかり、特に高齢者の場合は本人負担が抑えられている分、保険が賄う割合が多いため、不必要な入院を防ぐことは国全体の医療資源の適正利用に繋がると考えられます。

##### 3. 医療費増加の抑制：

利用者の加齢に伴い要介護度が重度化するにもかかわらず、診療看護師を配置したことにより、1日あたりの医療費の増加は抑えられました。これは、効率的な健康マネジメント能力を持った診療看護師が、特別養護老人ホームにおけるケアの主力である介護職と連携し、きめ細やかな毎日の生活上のケアをチームで行うことにより、加齢によって利用者が必要とするケアが多くなっても、医療費が抑えられ得ることが明らかになりました。

##### 4. 診療看護師の役割と経済効果の評価：

診療看護師は新しい看護師の役割であり、社会的な知名度も低いのが現状です。本研究では超高齢社会である日本の特別養護老人ホームに、診療看護師が配置されたことによる効果を明らかにしました。近年、医療者の働き方改革が求められている中、診療看護師による医療の質の維持に関するエビデンスを提供することができました。この知見は今後の医療人材の最適化による医療経済面での効果に生かせると考えます。

#### <社会的な意義>

高齢化が進む社会において、診療看護師の重要な役割と経済効果を明らかにした本研究は、第9回日本NP学会学術集会で最優秀演題賞を受賞するなど、その価値が認められおり、今後の高齢者施設におけるケアの方向性を示し、政策策定や介護施設運営において大きな影響を与えることが期待されます。

また、今後は、在宅ケアにおける診療看護師の役割とその効果に関する研究を進める予定です。



岡山大学  
OKAYAMA UNIVERSITY



慶應義塾  
Keio University

## PRESS RELEASE

### ■論文情報

論文名：Nurse Practitioner Placement in A Nursing Home in Japan

掲載紙：The Journal for Nurse Practitioners

著者：Masahide Koda†, Nahoko Harada†, Naoko Sato, Tomoko Araki, Kazuya Honda, Takemi Kudo, Takao Watanabe, Miho Suzuki, †筆頭共著

DOI：10.1016/j.nurpra.2023.104845

URL：https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S1555415523003471

### ■研究資金

本研究は、科研費（JP20H03918：日本におけるナースプラクティショナーの展開に向けた費用対効果等のアウトカム研究）の支援を受けて実施しました。

### ■補足・用語説明

(1) 診療看護師（Nurse Practitioner：NP）

一般社団法人日本 NP 教育大学院協議会が認定する、看護師として5年以上の実践経験を持ち、指定の看護系大学院で NP 教育課程を修了して必要な単位を取得した後に、認定審査に合格することで取得できる資格。医師、薬剤師等の他職種と連携・協働を図り、一定レベルの診療を自律的に遂行し、患者の「症状マネジメント」を効果的、効率的、タイムリーに実施することにより患者の QOL の向上に努める看護師。（出典：<https://jadecom-np.jp/np/compare/>）

(2) 後方視調査

過去に行われた診療上のデータ（カルテ等）を匿名化して用いる調査。

<お問い合わせ>

岡山大学 学術研究院ヘルスシステム統合科学学域

教授 原田奈穂子

（電話番号）086-235-6894

（メール）nahokoharada@okayama-u.ac.jp



岡山大学  
OKAYAMA UNIVERSITY



岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。